

## 六西学区の魅力と地域愛

社教委員会主催の「学区ふれあいウォーク祭り」が行われたのは、1週間以上前のこと。あれから随分と時間は過ぎてはいるが、「校長先生、ぼくね、あと3つで全部回れたんだよ。」などと、まだ「学区ふれあいウォーク祭り」のことを話してくれる子供がいる。そんな姿から、子供たちの心の中に残る素晴らしい行事であることを、改めて感じている。

何が子供たちの心をつかんでいるのだろうか。

- ①様々な景品がもらえる
- ②友達を中心に色々な人とのかかわりがある
- ③11か所のポイント制覇という目標がある

こうした点に、子供たちは魅力を感じていることだろう。

私としては、この行事の目的の1つとなっている「学区内の名所などを知る」ことも、価値を感じている。それは、子供たちには自分たちが住んでいる町に魅力を感じて、好きになってほしいと思うからである。

10月は、老人クラブの方々に校庭の樹木の剪定や雑巾のプレゼントをしていただいた。月曜日にはクラブ活動の講師を、水曜日には読み聞かせして下さる方もいる。その他の場面を見ても、本校は、実に多くの地域の方々に支えられている。「学区ふれあいウォーク祭り」も、地域の方々に支えられた行事である。地域の多くの人々からの愛情を感じて、子供たちは成長をしている。学区内の名所も魅力的だが、この地域の方々からの愛情こそが、地域の魅力を高めている。子供たちの地域を愛する心が育つのも、納得できる。



## 共通の思い出をつくる秋

大学時代の同級生たちと、話す機会があった。何時間経っても話は尽きない。話の内容のほとんどは、大学時代のことと、互いに教員として働く職場のことである。共通の話題があるということは、人と人のつながりをより強くするものだと感じた。

この10月には、学芸会やおかざきっ子展など、大きな行事が続いた。さらに、6年生は修学旅行、5年生は山の学習と続く。行事ごとに共通であり、しかも強く深く心に残る思い出を、子供たちに多く残してあげたいと考える。そのことが、子供同士の心のつながりへとかわっていく。

思い出ができるのは、学校だけではない。家庭や子ども会、習い事など、子供たちの全ての生活場面でできるもの。ただ子供たちは、自分の歩んできた道を振り返ることができないことがある。子供たちに歩みを振り返らせ、取り組んできたことを価値づけてあげる大人が、そばにいてあげることも、大切になると考える。

